



# 新開小だより

～太陽のように ひまわりのように～



学校教育目標

かしこい子  
心ゆたかな子  
たくましい子

令和6年度10月号

児童数 399人



毎日更新!



## 「書に耽る(ふける)」

## 「どの子もみんな一分の一」と「幸せづくり」

校長 八代 剛

10月になりました。虫の音が鳴り響き秋の深さを感じる頃となりました。9月には教師の指導力向上に向けての参観を行いました。子供たちはどの学級でも教師の発問に対して真剣な表情で授業に臨んでいました。全授業をホームページに公開してありますので、どうぞご覧ください。なお、10月には教育委員会指導主事が訪問され、管理面、指導面でのご指導をいただく予定です。

さて、秋と言いますと、「〇〇の秋」の様にたくさんの言葉に表現される季節です。思いつくだけでも、食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋、芸術の秋…。暑い夏から解放され、気候が安定し、様々な活動が気持ち良くできるからでしょうか。

そのような中、私からは読書の秋にちなんで、1冊の本を紹介したいと思います。少し前のものになりますが、「犬と私の10の約束」(川口晴著 文藝春秋)という本です。映画にもなった作品で、保護者、地域の皆様の中でも、お読みになられた方がいるかなと思います。主人公の女の子が小さい時に出会った子犬を飼う時に、10の約束をするのです。それは、このような内容です。

- 1 私と気長につきあってください。
- 2 私を信じてください。それだけで私は幸せです。
- 3 私にも心があることを忘れないでください。
- 4 言うことを聞かないときは理由があります。
- 5 私にたくさん話しかけてください。人の言葉は話せないけど、わかっています。
- 6 私をたたかないで。本気になったら私の方が強いことを忘れないで。
- 7 私が年をとっても、仲良くしてください。

8 私は十年くらいしか生きられません。だからできるだけ私と一緒にいてください。

9 あなたには学校もあるし友達もいます。でも私にはあなたしかいません。

10 私が死ぬとき、お願いします、そばにいてください。どうか覚えていてください、私がずっとあなたを愛していたことを。

私が初めてこの本を読んだのは、10数年前です。犬を飼い始めたこともあり、その言葉一つ一つが心に響きました。そして、命を預かることへの責任、動物との信頼、絆、愛。たくさんのことを考えながら読みますと、あふれる涙を止めることができませんでした。このお話をとおして私自身も成長することができたのかなと思います。今の立場になり、改めて読み返すと、あくまで犬との約束ではありますが、人と人の関係や教育にもつながるものがあるのでは、と考えてしまいます。

さて、10月は運動会もありスポーツの秋としても本領発揮。そのような中、落ち着いた雰囲気にも包まれ大好きな本を片手に、読書に耽(ふけ)ってみてはいかがでしょう。本は普段の生活では知り得ないたくさんのお話を教えてくれます。専門的な知識、科学的な見方・考え方、表現力、想像力など。ICT が主流になった今、あらためて読書の大切さを感じているところです。

### 【金管バンドクラブ大活躍!】

9月15日には大江戸新座祭り、21日には埼玉県マーチングバンド県大会(熊谷ドーム)に出場しました。息の合った演奏や動き、楽しそうな表情等、立派に披露でき、関東大会への出場を決めました。

